

## 1 「家庭・地域・学校協議会の運営について」

### (1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成 (2) 協議会の内容

公民館(1)

自治会連合会(1)

社会福祉協議会(1)

青少年育成市民会議(1)

安全安心ネットワーク(1)

民生児童委員協議会(1)

子ども会育成会(1)

地区保育園(1)

学校PTA(1)

#### ①第1回(7月)

- ・本会の主旨説明、活動方針
- ・本校の教育方針・年間計画
- ・第1回学校評価、教育活動の参観

#### ②第2回(12月)

- ・教育活動の参観、9～12月の学校の様子

#### ③第3回(2月)

- ・本年度の取組の成果と課題
- ・教育活動(集会活動)の参観
- ・学校評価の結果の考察と来年度の方向性

※灯明寺中学校区合同地域学校協議会(11月)

※地域コーディネーター3名

学校PTA(1) 公民館(2)

### (3) 協議会における成果と課題

今年度は、長年委嘱していたメンバーが複数入れ替わったこともあり、学校における教育活動の内容や、ねらいとしている点についてより詳しく、重点的にお伝えした。委員からはそれぞれの立場で心配な点、疑問点を出していただき、共通理解を図ることができた。

## 2 地域と進める体験活動

### (1) 活動のねらい

地域での活動を通して、地域の良さに気づいたり課題について改善したりしながら学びを深め、中藤島地区に愛着と誇りをもち生活を豊かにできる児童を育成する。

### (2) 活動の実際

#### ①全校活動から地域の祭りへの参画(5・6年)

本校では、毎年7月に全校縦割りグループがそれぞれに出店をして、お互いに店を回りながらふれあうという「龍王祭」を行っており、6年生リーダーを中心に各グループで出店する遊びの相談、作り物の準備などで全校児童が一丸になって取り組んでいる。前年度に初めてこの「龍王祭」での企画を、中藤島地区の夏祭りである「龍神まつり」や11月の「PTAまつり」に生かして高学年の出店を行った。企画に参加したメンバーの中には前年度のPTAまつりにボランティアで参加していた児童もいて、打ち合わせの段階から「お客さんが楽しめる店」を意識して店のレイアウトやゲーム内容を考えることができた。お客さんは小学生だけでなく、幼稚園児や保育園児もいて、上手にできない子には優しく声をかけたり、ルールを緩めに設定し直すなどの対応ができていた。

#### ②地域の方から学ぼう～ビオトープ・リース作り～

(なかふじルーム・全学年)

本校の特別支援学級は1～6年までの男女19名が所属している。今年度「心を育てる取組」として、地域の造園業者の指



【龍神まつりの様子】

導を受けながらビオトープとリース作りに取り組んだ。

### （３）地域コーディネーターの活動概要

例年、地域と深い関わりをもって行っている龍神まつり、PTAまつりでは、企画段階で児童の参画について助言をいただくとともに、児童用ブースの設定に理解と協力をお願いした。龍神祭りは雨で体育館での開催となり変更を余儀なくされたが、コーディネーターの的確なアドバイスによって無事運営できた。また、ビオトープやリース作りについても、コーディネーターに意見をもらい、次年度以降地域での活動とさらに関わりがもてる方法を話し合った。



【講師の先生とともに】

### （４）特に工夫した事項

「龍神まつり」「PTAまつり」では、児童が主体的にホワイトボードやブックスタンド等を活用し、PRの文言を入れて会場の各場所に置いたり、ゲーム高得点者の速報を書いてブースの外に張り出すなどして、集客の工夫を試みた。教師の指示は最低限にとどめ、6年リーダーに進行を委ねた点は昨年度と同じだが、2年目ということで昨年を超えるものにしようと張り切る児童が多かった。ビオトープ・リース作りでは、児童がこれまで経験したことのないもので、学級での話し合いや協力を楽しみながら行える活動を考えた。ビオトープ作りでは、講師の方に特徴的な浮き草を何種類も準備していただき、まずは視覚から児童が興味・関心をもてるようにした。その後、自分が育てたい種類をけんかしないように決めたり育てるために大切なことを積極的に学んだりなど、普段の授業以上に熱心な児童の様子が見られた。リース作りでは、講師の方の助言をもとに、自分なりに飾りを工夫することはもちろんだが、できあがりを校内に飾って他の学級や先生にも見てもらうことも目標の一つとしたため、丁寧に制作に取り組むことができた。

### （５）成果と課題

今年度は「龍神まつり」が7月最終土曜だったため、1学期中に準備した内容の確認とモチベーションの維持が難しかった。児童を積極的に参画させるためにも、コーディネーターにも意見を聞いて日程調整を図りたい。児童数が多いため、これらの活動に参画する児童は限られるが、昨年度からの活動をきっかけに、中藤島地区の商工会でも今年度「児童のお仕事体験」がスタートした。今後、学校とのタイアップの可能性も考えられ、生活に密着した学びの広がりが期待できる。

一方、従来は特別支援学級に専門の講師を招く機会あまりなかったが、今回の活動で効果的な点が多く見られた。大事にされたり受け身になったりすることが多い立場の児童が、植物の生育に思いを巡らせ配慮する経験も貴重であり、生きた教材の重要性を改めて感じた。設置した池を、次年度以降どのような植物で新たにデザインするかを皆で相談することを含め、児童の心の育成を念頭に置いた活動をさらに進めたい。